

大匠の始原神・守護神を祀る小堂

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

せいふくじたいしどう  
清福寺太子堂



巨木に見守られながら佇む太子堂



方形屋根と擬宝珠



大工と左官と瓦職人で建てられた御堂



扉に施された細かい彫刻

所在地： 高槻市清福寺町8番  
最寄駅： JR高槻駅西口から西へ徒歩15分  
若しくは高槻市営バス「清福寺」バス停より徒歩5分  
TEL： 072-674-7659 高槻市教育委員会まで  
問合先： 所有者の高槻市まで  
見学： 外観は自由です  
昭和63年高槻市指定文化財： 同年解体修理施工

仏教が中国から伝えられた時、瓦博士をはじめとする建築技術者が渡来し、新しい建築技術も同時に伝えられ、多くの寺院や伽藍が、この時を境に都を中心にして建設された。難波宮の近くに四天王寺、奈良の都の近くに法隆寺と言う具合である。これら四天王寺や法隆寺を建設したのが聖徳太子であると言われている。聖徳太子その人の正体は詳らかでない。名前ですら本人が名乗っていないかもしれないと言われており、厩戸皇子と呼ばれていた人物が聖徳太子であるとするのが一般的である。

一般に聖徳太子が寺院を建設したと言われ、歴史教科書にも記載されているが、聖徳太子その人が鋸を引き、鉋で削り、鑿で穿ち、槌を振ったとは考え難い。聖徳太子が今で言うコーディネーター、指揮、監督としての役割を担ったと考えたい処である。しかしながら、古くから聖徳太子は「大匠の始原神」であり、建築や木工の守護神として崇められてきた。現代でも「太子講」と呼ばれる大工を中心とした太子信仰がある。その嚆矢は室町時代に遡り、大工が聖徳太子を祀る事で、技術の発展や継承を祈願していたとも考えられる。現在では大工だけではなく左官や畳職、塗装工に至るまで建築に携わる人々が聖徳太子が祀られている寺院等で、家業の繁栄と家内の安全を祈願していると聞く。

JR高槻駅の西側にある清福寺町はかつて、京都・大工頭中井家が率いる上方大工組の一派である清福寺組が住んでいた場所である。清福寺町の中程、住宅に囲まれる様にひっそりと佇んでいるのが清福寺太子堂である。この太子堂は清福寺組の大工によって明和2年(1765)に建てられた。厨子のような様相の小さな御堂で、約1.8m四方。屋根は方形造りで、塔頂に擬宝珠を載せている。大工組が建てた堂らしく、大工と左官職・瓦職で殆ど建てた事ができそうな形式の建物で、小さいながらも趣のある表情を持った堂である。装飾は控えめであるが、大工技術の粋を偉観なく発揮している。もともと堂内には太子像が祀られていたと伝えられ、此处にも太子信仰と太子講の名残が見られる。

太子堂は、昭和63年(1988)に市の有形文化財に指定され、解体修理して保存されている。(神保 勲)